

将来は法人経営を目指して！

最初にご紹介するのは、本沢地区の中道雅則さんから研修を受けている竹田均（ただけだ ひとし）さんです。



就農を目指して、長野県にあるハケ岳中央農業実践大学校に通っていた当時、先生からトマトの魅力を説かれ、そのことが印象深く残っていた。ことから全道でも指折りのミニトマト産地である静内を選んだという竹田さん。「今は、日の出とともに一日が始まり、日没とともに一日の仕事が終わります。以前までの生活と違い、健康的で充実した毎日を送れていることを実感しています。」と話し、「早く色々な技術を自分のものにして自立したい。また、これは今すぐにはいきませんが、自らが経営者となったときには、法人経営を目指していきたいです。」とこれからの意気込み、そして、将来の目標について話してくれました。

「一日でも早い自立を目指して

次に豊畑地区の村田信治さんから研修を受ける佐々木知彦（ささきともひこ）さん・さとみさんのご夫婦をご紹介します。



就農を目指すことを一つの区切りとしてご結婚したお二人は、農作業に必要な大型特殊・大型二種・けん引免許を取得し、研修・就農に向け準備していたそうです。

佐々木さんご夫婦も先程紹介した竹田さんと同じく、就農する際には、トマト栽培を主とした農家を希望していたことから、北海道農業担い手センターから、紹介を受け、静内で研修することとなりました。

休憩中にごのお話を伺ったこともあり、村田さんご家族も交えてのインタビュとなりましたが、笑いが絶えず、あくまでも指導する側と指導を受ける側という立場ではありませんが、お互いが良好な関係を築いていることを垣間見ることができました。

今後の抱負について「研修先にも恵まれ、しっかりと勉強して、一農家として自立できるよう頑張っていきたい。」と知彦さんは話し、それに対し村田さんからは「全てを細かく教えることはできないから、盗めるものは、見てごん盗んでいって欲しい。」とご夫婦に言葉をかけていました。

新ひだか町農業の新たな力として



昨年度から新ひだか町・JAしずない・JAみついしの3者による新規事業としてスタートした「農業チャレンジャー支援対策事業」「がんばる！農業サポート事業」を活用して、今年度は新たに3組が研修生として実習を始めました。今回はその3組をご紹介します！